

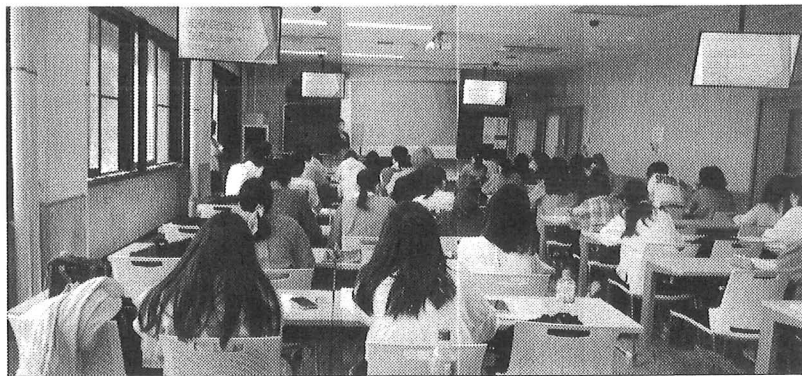


写真1 東京学芸大学で私が担当した授業の風景。自己紹介ワークやグループワークでは、学生の活発な交流や意見交換があった。

を専門に学ぶ学生のほか、教員志望の学生や、ソーシャルワークを学ぶ学生など2年生を中心に約50名が参加しています。(写真1)

授業に協力している社教主事会は、月1回の役員会や地区ごとのブロック会に加え、障がい者青年学級部会や家庭教育研究部会など

のテーマ別研究部会を開いています。私にとって社教主事会での情報交換は、日々の事業づくりのヒントに満ち、とても貴重な機会となっています。この会のメンバーは、ゆるやかなつながりを持ちながら、必要に応じて関係機関と連携・協力を図り、社会教育を振興していく活動をしています。

市川氏は、長年社教主事を務め、社教主事会での活動を大切にしてこられました。退職後も現役の社教主事や関係機関と新たにつながり続けています。

私は、この授業を通して市川氏と知り合うことができました。市川氏が準備段階から丁寧に関わってくれたため、社教主事として抱える不安や葛藤についても話すことができました。また、授業終了後、学生から「コミカレを見学したい」と要望が出た際も、市川氏は学生が現地向いて学べるように連絡調整をされ、2回に分けて自主見学を実施することになりました。私は、このような市川氏の関わり方から、あるべきコ

ーディネーターの姿を思い描くことができました。次に、東京学芸大学での実践の様子を紹介します。

2. 人や地域をつなぐコーディネーターの役割

授業では、「大人の学びを支援する」地域大学から生まれる新しい「コミュニティ」というテーマでコミカレでの学習支援の実践を紹介しました。

はじめに荒川区やコミカレの概要を説明しました。続いて、コミカレの年間プログラムの序盤で行うことが多い、自己紹介ワークを学生に体験してもらいました。このワークは、共に学ぶ仲間と地域を知ることを目的としています。自己紹介の方法を紹介します。

- ① A4の紙に自分を表す漢字1文字を記入する。
- ② その紙が他の人に見えるように持つ。
- ③ 名前と所属、書いた漢字の理由を伝え、自己紹介を行う。



(QRコード1)
YouTube「あらぶんちょ!チャンネル」
「あなたの知りたい!検索します 第23回」
受講生・修了生がコミカレへの参加動機や地域活動について語っている。
<https://www.youtube.com/watch?v=76Ffzi1txXk>

学生から次の感想が寄せられました。

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

学びを通じた人づくり・地域づくり —学習活動をコーディネートする視点から—

中泉 理奈

提案: 社会教育事業づくりや学習支援におけるコーディネートについて考えてみましょう。

「中泉さんが社会福祉士の資格を持っていると知り、何だかうれしかったです。社会教育に携わる中で、福祉の視点が活かされたことなどがありましたら、お伺いしてみたいです。」

このコメントは、2022年4月22日(金)に、東京学芸大学「コミュニティ形成と社会教育」の授業で、私が社会教育主事(以下、社教主事)として実践を紹介した際、学生が感想シートに書いた質問です。

私は、社会教育指導員として働いていた2019年に社会福祉士の資格を取得しました。荒川コミュニティカレッジ(以下、コミカレ)で、高齢者福祉分野の地域活動に関する学習支援をしたことがきっかけです。社会福祉士の視

点は、学習者の話を聴く時や人と地域活動をつなげる時などに無意識に活かされていると思います。しかし、社会教育実践において福祉の視点をどう活かしているかについて、意識をしたことがなかったため、この質問にはつとさせられました。

今回は、この質問を出発点にして、学習支援のコーディネートについてふりかえろうと思います。本稿では、コーディネートについて、物事が円滑に行われるように、異なる人や分野、関係各所、組織全体の調整や進行をすることと捉えます。社会教育におけるコーディネートは、人と人、人と組織などを組み合わせてつなぐことで、地域をつくる働きがあります。(倉持 2019...130・137、廣瀬 2019...96・107)

1. 学びの場を共につくるコーディネーターの役割

冒頭で紹介した授業において、今年度は「暮らしと地域を創る学び・社会教育主事の実践」をテー

マにしています。地域づくりにおける社会教育の意義や社会教育主事の役割について、実践者から直接学ぶ内容になっています。担当教員は、元中野区社会教育主事市川恵子氏(東京学芸大学 非常勤講師)です。

市川氏は、同大学で社会教育主事養成課程を担当している倉持伸江氏(教育学部 教育学講座 生涯教育分野 准教授)からの「都内の社会教育実践現場に最前線で関わる社会教育主事と直接対話し、交流することで学んでほしい」という要望に応えて、授業のプログラムを組まれたそうです。

この授業には、私が所属する特別区社会教育主事会(以下、社教主事会)2がゲスト講師として協力しています。そして、社教主事に加え、東京都消費生活総合センター職員や指定管理者として民間企業で社会教育を実践している担当者も登壇され、多分野にわたる社会教育実践を知ることができました。私自身が毎回参加して学びた内容です。授業には、生涯学習

さらに、学校(地域)でおすすめの場所・人・コトなどについて紹介し合う。

次に、コミカレ受講生・修了生のインタビュー動画を活用して、事業の成果や効果について伝えました。動画では、受講生と修了生がコミカレへの参加動機や学びを通して得たこと、地域活動について語っています。(QRコード1)

1:平成22年10月に開校した地域の担い手育成を目的とした区直営の地域大学。
2:東京都特別区在勤の社会教育主事で構成され、専門性を高めるために研修・研究・相互の連絡調整につとめ、特別区社会教育の振興に寄与することを目的としている。令和4年度は会員数44名。豊島区社会教育主事岡田麻矢氏が会長を務める。

「動画の中で、修了生の方が、
「一人ではできない、人の力を
借りてできる」というようなこ
とをおっしゃっていました。多
くの人が知恵や持っている資源
を提供し合うことで、より良い
ものが出来るというのは、すて
きなことです。人々がつなが
る場は突然わいてくるものでは
ないので、(筆者註・私は)そ
こが社会教育に関わる人の腕の
みせどころだと感じました。」

この感想を読んで、地域の資源
をつないでいくためには、学習支
援者が地域の課題や資源、人のニ
ーズや興味関心などの情報を把握
することが必要だと思いました。
情報を得るためには、学習支援者
自身が地域に向いて情報を得る
ことや人の話を丁寧に聴いて知る
うとすることが重要です。

私は、学びを通して地域資源を
つなぎ、新たな地域コミュニティ
の形成を支援することが学習支援
者の役割であると考えます。人や
活動をつないでいく際、情報を結

びつけて提案することもあります
が、個々の主体性や自主性を大切
にするため、学習者が必要とする
時に合わせて情報提供ができるよ
うに気をつけています。

コミカレの事業づくりでは、社
会教育指導員が中心となって講座
を運営し、講師や地域活動団体、
関係機関などの協力を得て学びの
場ができています。コミカレでは、
受講生の知識や経験、ニーズに合
わせて柔軟にプログラムを組むこ
とができるように調整をしていま
す。私は、社教主事として関わる
人たちと情報を共有・交換し、多
方面からの学習支援ができるよう
に働きかけています。

授業の最後に、私たち社会教育
行政が抱える課題についてグルー
プで話し合いをしました。テーマ
は、「若者を地域大学(社会教育
事業)の参加につなげるには？」
です。私は、若者当事者である学
生の意見を伺い、事業づくりの参
考にしたいと考えました。学生に
は、社会教育の現場で行われる双

方向の学びについて体験を通して
理解していただく機会としまし
た。
各グループからは、次のような
意見が出ました。

- ・ 社会に出て役立つようなもの
(地域住民の方々が講師とな
って教える)
- ・ 一人では体験できない内容を
展開(施設見学など)
- ・ 参加しやすくなる(単発の内
容、年間の中で選べる、土日
の開催、場所・オンラインな
ど)
- ・ 周知にSNSを使う、学校の
協力を得て周知する
- ・ 若者が来ている、来て良い場
所だということをアピール
する
- ・ 申し込みしやすくする(SN
Sから申し込めるなど)
- ・ アイディア出しのグループワー
クを行ったことで、次の感想が寄
せられました。

「若い世代の参加や、さらなる

普及については、(中略)どれ
だけ内容が魅力的でも、広報
の仕方や人材、道具、手段の
確保などもあり大変なのかな
と思いました。しかし、私自
身も含めグループワークでは、
それを考えること自体が楽し
い(楽しそう)と感じる人が
若者の中にもたくさんいるの
で、様々な「きっかけ」が増
えていくと素敵だなと思いま
す。そして、私は本日のお話
がその「きっかけ」の一つと
なりそうです。」

この感想からは、学生たちが、
仲間と共に地域について考えるこ
とに興味関心があることが分か
ります。また、ライフスタイルに合
わせて「きっかけ」を仕掛けてい
くことができれば、在住・在勤・
在学の地域で、若い世代の地域参
画につながる可能性があることを
示唆しています。この授業で学生
たちから得た意見を手がかりにし
て、事業企画や情報発信をすすめ
ていきたいです。

次の節では、荒川区で行ってい
る区民と共につくる社会教育事業
について紹介します。

3. 区民と共につくる講座へ参加 から参画につなげる学習支援

荒川区第三次生涯学習推進計画3
では、重点プロジェクト「子ども
の未来を育む学びの推進」を掲げ
ています。生涯学習課では、地域
の中で子どもを育む活動への支援
を目指し「地域子育て教室」を実
施しています。その一つに、地域
の母親同士の交流を促進し、地域
教育力の向上を図ることを目的と
した「ママ企画講座」があります。

この事業は、地域の母親を交え
て講座企画を行うことによって、
より当事者のニーズに沿った内容
で開催し、広く区民に学習機会を
提供するものです。企画会議では、
社会教育専門職がファシリテータ
ーとなって、乳幼児・小学生の母
親たちと一緒に講座をつくりま
す。

昨年度は、子どもに向けた応急
手当の講座を企画しました。日常



(QRコード2)
YouTube「荒川区公式チャンネル」
「【R03地域子育て教室ママ企画】～子どもに向けた応急手当」
令和4年度3月まで講義部分を視聴できる。
https://www.youtube.com/watch?v=bJmNpBm_yfY

今年度は、5月28日から企画会
議が始まりました。昨年度のママ
企画講座動画を視聴した新しいメ
ンバーも加わりました。企画会議
は、母親たちが参加しやすいよう、
集合形式とオンライン会議システ

ムを活用して実施しました。学習
企画のテーマ出しでは、食育やコ
ミュニケーション、自分を知る講
座など、活発な意見交換がなされ
ました。

この企画会議で「個人でインタ
ーネットを検索して得られる知識
や情報だけではないもの(講座企
画)をつくっていきたい」という
意見が出されたことが私の印象に
残っています。

なぜなら、私が社会教育事業づ
くりで、意識していることと重な
ったからです。この発言から、地
域において社会教育が必要とされ
ていると感じました。この意見の
傍線部が意味しているのは、その
地域に暮らす人が知っている(感
じている)地域情報の交換や、お
互いに話をしたり聴いたりするこ
とで気づきを得ること、学びを通
じてできた人とのつながりなどが
考えられます。

私は、地域での学習に参加する
ことが地域づくりの最初の一步と
捉えて、学習プログラムづくりや
学習支援を行っています。

4. 課題と今後に向けて

おわりに、冒頭で紹介した学生
からの質問について考えていま
す。私は、福祉の現状や制度を学
んだことで、学びを通して地域で
のよりよい暮らしを住民主体でつ
くっていくことが重要であると再
確認しました。地域社会を取り巻
く問題は多様で複雑に絡み合っ
ており、社会制度だけでは解決で
きないことも多くあります。課題解
決や問題を深刻化させないため
に、社会教育では、学びを通して
人や地域をつないでいくことがで
きます。私は、学習支援者が、地
域のコーディネーターとしての自
覚をもつて、他分野の強みを活か
した連携や協働、協力関係を促す
ことが重要だと考えています。

さて、ここまでコーディネーター
について述べてきましたが、学習
活動の支援で、より適切なコーデ
ィネーターを行うためにはどうした
らよいでしょうか。

廣瀬氏は、社会教育における地
域づくりの事例を挙げ、コーディ

ネットの機能や重要性を踏まえた上で「コーディネーターの任務は容易にマニュアル化できないといわれている」と述べています。
(廣瀬 2019:98)

社会教育事業をつくる際の効果的なコーディネーターは、目的やその時々状況、関わる人によって調整が異なります。その手順や方法についてマニュアル化できないため、コーディネーターとなる社会教育専門職の力量を上げていくことが課題です。

学習支援者の力量形成について倉持氏は、ファシリテーション、コーディネーション、プレゼンテーションが学習支援者に求められる能力であることを踏まえ、「これら3つは、重なり合い、響き合うものであるが『知っている』からといって『できる』とは限らない。学習者として、学習支援者として、実際に活動する中で、試行錯誤を通して実践的・専門的な力量を育てていく必要があるだろう」(倉持 2019:136)と述べています。

私は、よりよいコーディネーターのためには、実践を重ねて学び、日頃から新たな人との関係づくりを意識すると共に、常に情報のアップデートを心がけることが必要だと考えます。今年度、新たな取り組みとして社教主事会において「学びを活動につなげる部会」を仲間と共に立ち上げ、情報交換を行っていきます。他の事業や実践事例から学び、事業づくりや学びを広げるコーディネーターに役立て、社会教育の現場から地域づくりを推進していきたいです。

(参考文献)

倉持伸江、2019、高井正・中村香編著『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、130・7、136
廣瀬隆人、2019、田中雅文・中村香編著『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部、96・107、98

中泉 理奈 (なかいずみ・りな)
荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課社会教育主事

社会教育編集部が提案する役に立つ社会教育書籍

行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策

著／岡本 薫 2022年2月28日発行
A5判 112頁 定価1320円
送料／215円 ISBN-7937-0129-9 C3037

[生涯学習・社会教育行政の基礎・基本]

生涯学習とは？

なぜ生涯学習社会が必要か？

生涯学習の振興理由

生涯学習と行政の役割

生涯学習と学校の役割

選択と自己責任

スポーツ・文化・ボランティア活動と生涯学習



ご注文は書店または(一財)日本青年館編集部まで
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
TEL 03 (6452) 9021 FAX 03 (6452) 9026

改訂 社会教育法解説

井内慶次郎 定価1100円 B6判
山本恒夫 共著 128ページ送料／215円
浅井経子 ISBN 978-4-7937-0120-7

1949年6月10日の社会教育法の起草者
井内慶次郎氏執筆の法の趣旨を確認したい

〈目次〉
まえがき 再改訂にあたって
序論：社会教育法六十年
社会教育法の制定
社会教育法の一部改正
昭和二十六年の改正 昭和三十四年の改正 平成十一年の改正 平成十三年の改正 平成二十年の改正
生涯教育から生涯学習へ
平成四年生涯学習審議会答申
平成十年生涯学習審議会答申 平成二十年中央教育審議会答申

本論：社会教育法の解説
付録 新旧対照表 関係用語の解説

